

平成27年度安城市総合計画審議会議事要旨

日時 平成27年6月25日（木）午後1時30分から3時30分

場所 安城市役所 第10会議室

出席者 【総合計画審議会委員】

佐々木孝治委員、都築雅人委員、成瀬早苗委員、浅田奈津子委員、石川愛子委員、神谷和也委員、神谷啓介委員、田村脩委員、塚田哲雄委員、鳥居保委員、中根敬子委員、日比野繁喜委員、深谷誠委員、堀尾佳弘委員、矢羽々みどり委員

【事務局】

市長、副市長、教育長、企画部長、行革政策監、企画政策課長、関係部長・次長・監、企画政策課・みらい創造研究所、総合計画専門員、委託業者

- 1 市民憲章唱和
- 2 辞令交付
- 3 市長あいさつ
- 4 議題
 - (1) 総合計画素案（基本構想）について
 - (2) 分科会の構成について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) 総合戦略について
- 5 連絡事項

1 市民憲章唱和（教育長）

2 辞令交付

代表 深谷委員

3 市長あいさつ

皆さんこんにちは。

本日は、大変暑い中、またご多用のところ、私どもの総合計画審議会にご出席をいただきましてまことにありがとうございます。

ただいま新しくお2人を総合計画審議会委員に任命させていただきました。

背景には、昨年度に総合計画の諮問をさせていただき、今年度中にまとめる予定としておりましたが、先ほど司会からも話がありましたとおり、その後、昨年末に国が、活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生、一般的に地方創生と呼んでいるようでありますけれども、それに関する施策を全国的に進めるべく、総合的かつ計画的に実施する総合戦略、および人口ビジョンの策定を全国の市町村へ

も努力義務とされた、そんないきさつがございます。

新たに加わった地方創生計画の策定に当たっては、幅広い年齢層からなる住民はじめ、産業界、市町村や国の関係機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディア等の参画と知見が必要とされております。

本市では、これからまとめてまいります長期計画であります総合計画と新たな地域振興策であります地方創生の計画とを別々に作っていくのではなく、同じ顔ぶれの委員の皆さんにより、2つの計画を並行する形で策定しまして、両計画の整合性を図りたいと考え、さらに幅広い顔ぶれによります委員会構成とさせていただいたものであります。

さて、本市では平成17年度を初年度といたします第7次安城市総合計画において、「市民とともに育む環境首都・安城」を目指す都市像としまして、あらゆる施策に環境重視の視点を取り入れ、安城市の特色を生かしたまちづくりを市民の皆さんとの協働で進めてまいりまして、いよいよ本年度が最終年度となっております。第7次総合計画の集大成の年ということで、ある一定の成果を残さなければならないという思いでありますが、一方で、安城市の未来を示す、大変重要な新しい総合計画の取りまとめも進めていかなければなりません。

本市では依然として人口は増加しているものの、確実に高齢化の波も押し寄せてきております。高齢化の進展によりまして社会保障費などの増大が財政を圧迫することも心配されますが、そのような中、新しい総合計画は、将来予想される課題に備えるためのものとなることも認識しなければならないと考えております。

本日の審議会では、安城市の今後8年間のまちづくりの基本的な方針である基本構想をご審議いただくこととなります。

総合計画策定には、委員の皆様のお力はじめ大変多くの方が携わり、作られてまいります。今回の素案提示までの過程でも、各種アンケートや昨年度本市で初めて行ないました「まちづくりディスカッション」など、多くの市民の皆さんにご協力をいただいております。

本日は、ご出席の委員の皆様からのご意見をいただきながら、よりよい形で今後、2つの計画策定を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくご協力またご審議賜りますようお願いを申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 総合計画素案（基本構想）について

【事務局】（議案説明）

【鳥居会長】

ただいま説明がございました基本構想について、ご意見あるいはご質問などありましたら、ぜひお手を上げていただきたいと思います。

【田村委員】

みらい創造研究所の活動報告書を読んだのですけれども、その中の111ページに「次期総合計画への提言」というのが、みらい創造研究所から出ております。まさに今発表されたのは、これをそのまま受けた形になっているのですが、これはそうすると未来創造研究所が提言をしたものをここに落とし込んで今後やっていくよと、こういう形になると思うのですが、その辺の捉え方はどうなんですか。

それと、こういう提言というのはどうしてもインパクトの強い形となって、今いう5Kというのはこれに縛られ過ぎていないか。そんなことを少し感じましたものですから、基本的にスタートとして聞かせていただきたい。

【事務局】

基本構想は、基本的にこの提言をそのまま受けてという作りでいっております。一番大事なのは5Kの健康、環境という一つ一つがちゃんと漏れがなく行政の活動がカバーできるかどうかというのがございました。それはあってはいけないことですので、7次総合計画の二百数十の事業に当てはめるかどうか、組み分けができるかどうかという検証作業は行なっており、カバーできないということはないということが確認はできております。

もう1つ、5Kについてそれぞれ部門別計画で、今からの話になるのですが、基本計画の部門別の計画でどれだけこれを意識づけして、関連づけして課題設定をして、そして目標設定して、事業に展開させていくことができるかどうかというところにかかっているのかなというふうにも思っております。

いずれにしても、この建て付け自体はシンクタンクの方のままで行きたいなと思っております。以上です。

【田村委員】

みらい創造研究所を立ち上げたということは、こういうような提言をしていただきたいということを考えられたから、こういうものが出来て、結果としていいものが出てきたということではあると思うんですけれども、これを練った段階、それはみらい創造研究所、これの構成員はどんなふうになっていましたかね。その構成員の中からこの結果が出たと思うのですが、その辺をお聞きしたい。

【事務局】

お答えさせていただきます。

一番トップには奥野教授にスーパーバイザーとして就いていただいております。

そしてあとは、学識経験者では名古屋工業大学の秀島先生にお願いしてございます。庁内組織として、副市長を研究所の所長としております。その下に私、その下に主任研究員、研究員が3名。3名の内訳といたしましては、多部局からの選抜した職員が2名と、一般公募によるドクターとして女性の専任研究員という形で外から招聘いたしまして、研究に専念いただいている。そんな職員体制でございます。

【田村委員】

そういう形で、市民目線も入っての形でこういうものが出来ているということであるならいいと思います。

【佐々木委員】

これは市としての一番の行動指針ですよ、将来に向けての。ここに市会議員だとかそういう方はどういうふうに関わってくるのですか。こういうものを作るときに、そういう方も入って、こういうのを組んで、実際に行動を起こされるのはもちろん市長中心ですけど、市長の下には市会議員の皆さんがみえると思うんですけど、その関わりというのを、お聞かせ願いたい。

【事務局】

例えば今回ですと基本構想でございますけれども、審議会としてご了解いただけるということでなりますと、議員さんにご報告をさせていただく予定をしております。そこでまたご意見をいただくということでございます。

同様に基本計画が審議会の方でご了承いただいたときには議会にご報告をさせていただく計画をしております。

その後、パブリックコメントをかけた後、最終案という形で議会の方にもご報告をさせていただくということで、都合3回、ご報告をさせていただく予定をしております。それから、先ほど説明しましたけれども、代表者アンケートという位置づけで議員にアンケートにお答えをいただいているということもやっております。以上でございます。

【事務局】

企画部長でございます。

ご質問の趣旨に対して、このように現在考えております。

以前は、本市の各種計画につきましては市議会の議員、それぞれの所属がございましたので、ご参画いただいて計画を策定していた時期がございましたが、議会事務局長が同席しておりますので間違っていれば訂正してくれると思いますが、かれこれ10年以上前から議員さんは計画に対して、いわばチェック機能と申しますか、指摘をし、必要ならば修正をするというような、策定過程における姿勢に転換されておられます。その一環でこの総合計画につきましても、ただいま課長が申し上げましたように、節目節目でご説明し、ご意見を承り、また執行部側として正すべきところは正してまいりたいと考えておりますが、そのように安城市では議会と執行部との関係が構築されておりますので、本計画についてもその考え方で取り組まさせていただくという考え方でおります。

【矢羽々委員】

市民公募から選出されました矢羽々と申します。

素案を拝見しまして、3点ほどお伺いしたいと思います。

まず、駅周辺のまちづくりに関して安城市では、桜井駅、安城駅、三河安城駅につ

いてはかなり整備が進んだ状態だと思いますが、一方名鉄新安城駅周辺は、かなりの利用者が乗降していると思うのですけれども、ロータリー等の整備が大変遅れているような現状だと思います。特に、篠目町交差点から住吉、新安城に向かう道路は、大型店がここ数年進出しておりまして、週末はかなりの混雑がございます。私事で恐縮なのですが、昨年も信号のない作野公民館へ曲がる所で右折で、道幅が狭いものから真っ直ぐに止まっていたんですけれども、私自身も追突事故に遭いまして、現在も治療に通っております。

従来、中心市街地というのは、私どもの年代にしますとどうしても安城駅を中心に物事が考えられると思うのですけれども、ここ数年いずれも大きな駅が整備されてきておりますので、市内全域を見回して万遍ない活性化と道路の整備が必要だと思っております。

続いて、安城市は現在、全国的に見ても30位に入る富裕団体として評価されているようですが、これもひとえに安城市政を支えられた先人の皆様方のたゆまぬ努力の結果だと思っております。

しかし、この財政力指数を支える大きな要因は、一体何によって支えられているのでしょうか。また、この要因は今後、この計画を実施するために8年間の総合計画を支える重要な要素だと思うのですけれども、持続可能な要因となっておりますでしょうか。

最後に、市民一人一人が個人として自らが健康や生き甲斐、ボランティアを通して充実した日々を過ごすことは大変重要なことだと思います。

また一方、安城市民全体の取り組みとして、伝統である「七夕まつり」は、私は過去、市民参加として10年ほど携わったのですけれども、非常に優れた伝統行事であって、市民全員が皆様いろいろな形で参加できる、すばらしい伝統行事だと考えております。ここ数年、新美南吉さんや、また都築弥厚氏の計画も整備されていると思いますが、こういった大型な企画とかイベントは予算面もあり、いろいろなことの協力が必要だと思いますので、ぜひ行政主導でこういった5Kが横断できるような、優れたイベントとか企画を行政でぜひ実施していただきたいと思っております。以上3点です。

【事務局】

ありがとうございます。ご指摘をいただきました1点目でございます、新安城駅方面や道路の改良というご指摘をいただきました。

その点につきましては、今後、基本計画の方でご議論をいただくテーマでございまして、改めて議論をさせていただければと思います。

それから、2点目、財政力指数1.13を支えているものは何で、それは持続できるのかというご指摘でございます。

基本的な認識としましては、地域の産業が非常にいい状態であるということがベースにはなるかと思っております。それにつきましては今のところ、急に悪化するとか持続ができなくなってしまうほどの悪化がこの8年間で起こるというふうには考えておりま

せん。

むしろ、先ほど説明しましたように、2030年をピークに人口が落ちたり高齢化が進むということに備えて、今、力のあるうちにいろいろな対処を作りたいという、積極的な考えで総合計画をまとめたいと思っています。

それから、3点目、イベント等を展開するときに組織横断的に取り組みをしてはどうかというご提案かと思います。

今回の総合計画は、それが狙いでございまして、組織横断的にやっていきたいと思っています。

【矢羽々委員】

1つ質問させていただきます。2番目の件なんですけれども、この地域おかげさまで自動車産業、大変盛んで、かなりその経済力に頼っている部分もあると思うのですが、事例が悪くて恐縮なんですけど、アメリカで過去に自動車産業の都市が壊滅的な経済の打撃を受けて破壊状態になったことも記憶に新しい方もあると思います。やはり安城市は農業もバランスよく、いろいろな面で、企業もいろいろな企業が入ってくださっていることは素晴らしいと思いますが、その辺りも念頭に入れて、あまり一業種に偏ってしまっていて安心しているのは、少し心配ではないかなと、杞憂かもしれませんが、思っただけで質問いたしました。以上です。

【堀尾委員】

先ほどの話に戻るんですけど、全体の中で関連した5K、これは先ほどもお話がありました。みらい創造研究所からの提言だということで、このみらい創造研究所の提案の5Kというのを我々が今回ありきとして議論していくのか、それともそれを議論していいのか。そこがはっきり分からない。

【鳥居会長】

5Kについてはこれで決まっちゃったのかということだと思いますけれども、事務局の考え方どうぞ。

【事務局】

市民の幸福というのが出発点になっておりまして、先ほど少し出しましたが、幸福感は主観的なものでございます。内閣府の調査も、みらい創造研究所が行っておりますが、出発点は主観的なものというふうにしっかり認識しております。主観的なものを客観的な数字で分かるようにするにはどうしたらいいのかというのが、内閣府の調査だったわけでございます。みらい創造研究所のスタッフがいろいろと調べまして、私もいろいろ調べて、大きく2つの方向がございます。

主観的な幸福をどのようにつかまえて、施策に反映するのかという2つの方向があるかと意識しているのですが、1つはさっき言った内閣府の方向で、主観的なものをなるべく客観的に数値にして、たとえば乳幼児の死亡率ですとか余命年数の平均ですとか、客観的につかまえられる数字で健康の状態を、あるいは長期疾患の罹患率、そういう客観的な数字で目標を設定していこうというのが1つの方向です。

もう1つは、東京都の荒川区がやっているのですが、さらに主観的なことを聞くのですね。「あなたは健康ですか？」という質問を区民に聞く。その主観的な区民の声を政策に反映するという2つの方向がございます。

今回、総合計画でやろうとしているのは、どちらかという内閣府の方です。テーマは幸せという主観的なものですが、進捗管理は客観的なことで聞きたいと思っています。

最初のご質問というか懸念は、答えになってないのですが、幸せという主観的なものをどういつかまえ方をするのかというのが、定型というかパターンというか、確立されたものがないです。安城市は今、みらい創造研究所が出した5つということで整理をしますが、内閣府は先ほどご覧いただいたような、整理の仕方をしていたりとか、あるいは荒川区は別の整理の仕方をしております。

いろいろなパターンがあって、今回はみらい創研が出した5つで安城市としては整理していきたい、ということでございます。

【事務局】

堀尾委員から基本のご指摘をちょうだいしております。お答えしたいと思います。少し時間が経ってしまいましたが、昨年度からこの委員会にご出席いただいている委員はご承知かと思いますが、本市も例外なく少子高齢化に行くというデータは、先回の総合計画審議会の席上でご説明したところでございます。そして今日のスクリーンの中でも策定の前提条件としてというところで、その中に人口減少とかそういったことはございます。

これから本市が進んでいく道は、高齢化社会、そして少子化社会の中で、どういふふうに住民の方が安城市に住んでいて良かったとだけ思っていたかというところに焦点を置いております。過去、第7次総合計画までに、必要とする施設整備は一通り行いました。ただ、先ほどの新安城周辺の渋滞の問題ですとかそういったことがまだ残っておりますので、これは今後も続けてまいります。総じてこれから私どもが進むのは高齢化社会の中で、生き甲斐を持って市民の方々が納税者として良かったと思っていたかのような社会を作っていかなければならない。

そのようなところに焦点を合わせますと、先ほどの住民アンケートではございませんが、健康という言葉、そこから感じられる幸福感ということが、今後私どもがまちづくりを進めていく上で非常に重要なテーマだろうと、昨年度来、シンクタンク、あるいは執行部側等でも研究しておったわけです。

それをどのように施策として体系的に進めていくかということを考えますと、企画政策課長が今も説明したように、5つのKに集約できるのではないかと。そして、検証していったところ、私どもとしては良いのではないかと考えております。

ただ、本日お集まりの審議委員の皆様方から、この5Kではまだ足りないとか、あるいは、ここはもう少しこういうふう集約できるのではないかと、様々な意見があるかと思っておりますので、本日の審議を皮切りに今後進めてまいりますので、委員の

皆様方のご議論の中で最終的な形が成熟してくるのかなと思っております。ただ、私どもは、限られた時間の中で円滑にご審議いただくことも考えまして、ある程度事務局サイドから私どもとして一応ベストと思われる案を今日ご提案して、そして20名の方々のご意見に委ねてみようという思いで本日は臨んでおります。

【鳥居会長】

よろしいですか。何か付け加えることがあれば。一番大事な論点です。

【神谷（和）委員】

今回の5Kで従来の総合計画の方向がすべてカバーされると言われたので一安心はしたのですが、私は社会福祉協議会の立場で拝見しておりますと、安城市の予算の3分の1近くが福祉関連の予算で、これは市にとって一番大きな柱の一つには間違いないと思うのです。

それが5Kの中で社会福祉を見ますと、きずなの項目の中に位置づけられまして、これで福祉が果たして十分に反映されるのか。位置づけとしてだいぶ後退しているのではないかという心配があります。

市民がきずなと聞いたときに、すぐ福祉というふうに結び付けてもらえるかどうか。神谷市長も従来、非常に福祉関係は力を入れておられたはずでございますし、福祉が後退してしまったような印象をこの計画の中で与えるのはいかがなものであろうかと、少し心配で。先ほど堀尾さんも指摘されたのですが、この表現が若干心配な感じがしたものですから。特に私どもの立場としては、少なくともこの5項目の中のごく一部の位置づけで終えてしまうのかと、その辺が心配でお訊ねします。

【事務局】

きずなという言葉を一一般の人が聞いてそれだけで福祉を連想できるかということのご指摘かと思えます。きずなという言葉の中にどれだけの意味を込めるかということもあるのですが、それのご理解というか、皆さんに知っていただけるかというところにつながるかと思うのですが、広い意味で使わせていただこうかなということなのです。

【事務局】

よく福祉を3つの言葉でたとえてらっしゃるのではないかと思います。自助、共助、公助ですか。この「助」というところはまさしく精神としてきずなというのがバックボーンになるのではないかと思います。そんなに大きな飛躍ではないと思うのです。そのような捉え方もきずなという言葉の中に含めていったらどうか。社会福祉協議会のお立場である神谷委員からのご意見として拝聴しておりました。

【神谷（和）委員】

「絆」という言葉が震災以降、非常に使われまして、どちらかというところ、もちろん助け合いということの要素はあるかと思うのですが、防災、減災、これが第1段に書いてあります。そちらにどうしても意識が行ってしまうのではないかという心配があったものですから。

私としては、社会福祉の上でも、皆さんがパッと感じてもらえるような表現があれ

ば、それの方が望ましいかなという思いで発言させていただきました。

【鳥居会長】

ありがとうございました。社会福祉というのはこれから最大のテーマでもあるということで政府もいっておりますので、協議の中で皆さんにウエイトを上げてもらう、あるいはいろいろなことをやっていただけるように進めていただきたいと思います。私も実は、この地区の社会福祉協議会の会長をやっています。常々やっているのは、非常にウエイトが高くなって、全てのところに関連してきたということなのですね。だから、そういった意味で社会福祉というのは、相当大きな目で捉えていかないと、お金の問題も3分の1というのはありますけども、社会がそういう方向に動いているということだと思います。

特に、地域包括ケアという大きなテーマ、安城市そのものが取り上げないといけなようなテーマもあるわけですから、大きなウエイトで見ていただくことは大切かなと思います。

その他ございませんでしょうか。

【深谷委員】

事務局の方から、計画は3年ごとにローリングをするという説明があったと思うんですけども、ローリングというのはどういう意味なのか。たとえば数値目標だけを切り替えるのか、今言われている5Kとかそういう根本的な基本理念に近づくことまでローリングの対象に含めるのか。

【事務局】

今パワーポイントが出ておまして、実施計画3年というのがございまして、3年ごとのローリングというのは、3年間の事業計画を毎年、3年分を毎年回して、具体的な計画の、予算付けに使えるように検討していくということを繰り返していくというところですよ。

一方、委員ご指摘のことは、基本計画、あるいは根本的に基本構想のそれぞれの項目について見直しがどういうタイミングで行われるかというご指摘かと思います。

今のところ私も考えているのは、前半が4年で1回見直しをさせていただきたいと考えております。もちろん、毎年毎年の実施計画の3年ローリングの成果も踏まえてということで、前半4年で1回見直しをさせていただきたいという計画でございます。

【堀尾委員】

「市民一人ひとりが幸せを実感できるまち」。これは究極、個人個人の人生における最大のテーマのような気がしますが、それがいわゆるキーワードというか、そこに至るためには何かアクティブキーワードみたいなものがあつた方が、市民としては分かりやすいのではないかという感じを受けました。

例えば、首都東京のような大都市の場合は、大きくなるにしたがって組織がまとまってこない。だからこそ地方創生ということが叫ばれるようになって、我々安城市に

おいても地域として地域の創生をしていかなければいけない。これの最大の目的は、多分人と人のつながりだろうと思うわけです。

そういうことがあるからこそ、今回の拠点施設なんかもつなげていくということがたぶん意識としてあって、いろいろなビジネスにつなげていく、また、張り付けていくといいですか、ボンドしていくというような、そういう感覚のものではないかと思うのですが、その場所はおそらく交通手段の一番便利な所、おそらく我々はどんどん便利な所に狙っていくと思うので、市内的には駅中心のそういった所にボンドしていく、張り付ける、張り付けていくのはそれぞれの人間たち、我々市民がやっていることですので、そういった形でつながっていくという、そのような意味合いのものがアクティブキーワードでいるような気がするのですが、これは私の意見ですが、いかがかなと思います。

【事務局】

つながっていくというキーワードで先ほどの話で絆というところでもありますけれども、つながっていくということが、おっしゃる意味は行政が市民の皆さんあるいは団体さんをつながる、いわゆるパートナーシップとか新しい公共とかソーシャルビジネスとか、そういうつながりの仕方がいろいろな所で、マトリクスで絆というところが関わっているのが、生涯学習、文化、スポーツ、全部の行政分野にはかかってないのですが、これが全部つながって、全分野がきずなというところにつながって、市民あるいは団体さんとのつながりを意識してやるべきかなという、そういうご指摘のように受け止めております。

マトリクスはこういう整理になっておりますけれども、実は所管の皆さん方と私ども企画政策課の中で、うちの業務はきずなとはつながっている、経済とつながっているのかとか、そういうやり取りが行われています。私たちとしては狙ったところでありまして、この5つのキーワードでそれぞれの部署の方が健康とかきずなとかそういう面で意識しながら見直しているということができているのと思っています。

【堀尾委員】

個人的な解釈でいうときずなというのは、ひとつの精神性を表わしている語彙だと思ふんですけれども、つながっていくというのはアクティブなワードじゃないか。つながりという言葉を使っているわけではなくて、アクティブキーワードが必要ではないかという、意味合いのお話しさせていただきました。

【事務局】

堀尾委員からご指摘いただいたように、今ちょうど絵が出ていますが、仮に皆さん方のご承認いただいて、5Kがいきなり市民一人一人の幸せが実感できるまちといったものにつながるということを一言で説明すると無理があるのかもしれない。そういう意味では、アクティブワード、あるいはプランがいるのかもしれない。

それが、先ほどのピラミッド状にございました、今後分科会等でご議論いただく基本計画のところを下りてまいります。この基本計画の中でいろいろな分野に分けて議

論していただきますが、そこをフォーカスするようなワードというのは考えられるのかもしれませんが、今、中抜きで模式図をご覧いただいておりますので、もう少し基本計画のところ辺りの議論が出てくると一足飛びに、市民一人一人が幸せを実感するという、そこへのジャンプ感がございしますが、もう少しホップ・ステップ・ジャンプというような形になろうかと思えます。それが必要だということならば、それに代わる表現も入れていくというのが皆さん方のご意見であれば、代表的な考え方を私どもは取り入れたいと思っております。

【鳥居会長】

非常に課題の多いテーマですので、それぞれの分科会で大いに論議いただければありがたいと思います。

その他よろしいですか。

【中根委員】

さんかく21・安城の中根と申します。

幸せというのがどういうものかという話で、人は急激な変化とかそういうのは幸せではないと思うのではないかと考えています。何が今、問題なのかというと、少子高齢社会になるのにどのように取り組んでいったらいいのかというのがこのテーマのかなと、今話を聞いて思っていたんです。少子高齢社会ということは、経済が縮小して、福祉事業が増大する、それが前提ですよと言っているのかなと思います。そうしたときに、たとえ経済が縮小したとしても、少しずつ生活スタイルを変えていく方法で幸せ感が得られるようにしたいというのが、今日のこの会議のかなと私は今聞いていて思いました。

結局、福祉事業などの増大ということはどうしてもきずなは求められていく、そのように思うので、どのように少しずつ変化に対応していったらいいのかということで、何か指標であるとか、そういう数値的なものも出来てくるのではないかと思いました。

【鳥居会長】

ご意見でございしますので、事務局しっかり留めておいていただきたいと思います。変化に対応した福祉、子育て、そういったところだと思います。よろしく願います。

その他よろしいですか。

【都築委員】

マトリクスの所で子どもを見ていきますと、市街地の下の防災・減災の所に子どもが入ってない。こどもの分科会のところで市街地の下の防災・減災、生活安全も議論していただいた方がいいんじゃないかと思えます。

【鳥居会長】

ありがとうございます。これも提言ですね。先ほどの福祉と一緒に、切れちゃっているというのは、やっぱり。いろいろとある。ランクの上下もある程度ウエイトを考えないと。この辺、これからの課題かなと思えますので、事務局よろしく。

【事務局】

それぞれ貴重なご意見賜りました。感謝いたします。

表現の仕方で私どもスパッと縦線で切ってしまうておりますが、ご指摘のとおり生活安全が第一でしょというのは全くそのとおりでございますので、もう少し表現の仕方は変えていくべきかなと、そのように反省しております。

【鳥居会長】

これからは例えば、福祉の所で子育ては入ってません。だけど、少子高齢化の世界で社会福祉が入ってないなんて考えられません。先ほどの中根さんのお話とドッキングするわけですけど、これから皆さんで論議して、皆さんが満足するような、防災も含めて、ということだと思います。

その他ございませんか。

【田村委員】

先ほど、時代背景の中で国の政策がある、地方創生、これを大きな一つの捉え方としてこれからいかなきゃならないんだと、言っておられたわけですが、この5Kの中でどんなふうに結び付いていくようにしていくということを考えておられるのか。その辺をお聞きしたい。

【事務局】

この後、地方創生の方のご説明をさせていただくのですが、イメージとしましては5Kとのつながりという建て付けで総合戦略は作っていかないものですから、国の方が示しました4大政策分野というところでの建て付けになります。

イメージとしましては総合計画の決め事のうち一部の分野、後でご説明させていただくのですが、結婚、出産、子育てですとか、仕事づくりですとか、それから、まちづくりですとか、人の流れといった、4つの分野とつながる個別の分野に関連するものをピックアップして、少し深掘りをしていくという、そういう捉え方での作り込みになりますので、直接、地方版総合戦略は5Kとつながるといった形での見せ方にはならないです。

【田村委員】

せっかくこの計画を立てられる段階で、総合戦略を立てるわけですから、今、政府、国を挙げて言っている段階のことがもう少しこの中に落とし込めないかと思うのですが、まずはこういう形の中で、たとえば経済の中で論じていけばいい、それから環境の中で地方創生については論じていけばいいというような捉え方でしょうか。

【事務局】

ご指摘のところはもちろん否定はするわけではございません。後ほど、総合計画と、この後説明します地方版総合戦略の相関関係と申しますか、整合するところとそうでないところというような方も模式図でご説明いたしますが、その中ではやはり、子どもに関わる結婚・出産・子育て、あるいは仕事づくり、雇用・経済に関係しますが仕事づくり、あるいは人の流れ、これは観光であったりいろいろな所で関連性がござい

ますので、後ほど詳細に説明させていただきます。

【田村委員】

国が掲げている重要な施策であるし、また、それをやらなければ地方創生はないということです。安城の場合、地方創生といってもなかなか、一人ひとり市民感覚差があるから、豊かさを実感している方からいけば我々が地方を支えているんだという認識がある方もみえるし、その辺は難しいと思うけれども、先ほども話が出た3年のローリングというようなことになるなら、最初の3年というものはやはり、政府がそれを言っているなら、しっかりと受け止めてやっていく安城市ということの方がインパクトが強い。先ほど言われたように、今からやっていく中でそれを取り込むということであればいいのですが、安城市がどのように考えていくかということも、大きな課題ではないかと思いました。

【浅田委員】

お願いします。エコネットあじょうの浅田です。

いろいろお聞きしていて、幸せを実感できるまちというふうでいくと、私たち一人ひとりの市民に下ろしたときに、とても抽象的かなということで、少し心配をしております。

例えば、現在やっているゴミ減量でいうと、数値的に私は1日これだけ協力できたというような、市民が実感できるということがあると思います。今年は30%目的に達成できなかった、もうちょっと協力しなきゃいけない、というような声が聞こえてくるわけですね。

幸せを実感できるということ、より具体的にしないと市民一人ひとりは何をしていいのか、特に幸せとか健康というのは人それぞれによって満足度が違うと思うのです。したがって、先ほど数値的になかなか難しい、余命がどうかというお話がありましたけど、より具体的に市民に下ろしていただかないと、漠然としてしまうと、市民一人としてどういう取り組みをしたらいいか、どのように協力したらいいかということまではなかなか見えてこないんじゃないかということを考えますので、ぜひ具体性、分かりやすく、ちょっと難しい言葉が出ておりましたけど、横文字的じゃなくて、誰でもが分かるような言葉で表現していただくのもいいのかなと思います、言わせていただきました。以上です。

【鳥居会長】

市への提言について非常に貴重なご意見をいただきました。事務局もしっかり留めておいていただきたいと思います。

その他、よろしいですか。

皆さんの意見をたくさん出していただきました。事務局のそれぞれのご意見を全て協議していただいて、後から見えるような形で留めておいていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(2) 分科会の構成について

【事務局】 (議案説明)

【鳥居会長】

今、分科会の説明がございました。日程も入っているようですので、皆さんご了解をいただきたいと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

【事務局】

本日を含めまして6回、ご協力をいただきたいということでございます。

いずれにしても、市長マニフェストとの整合、あるいは先程来ご指摘ごまします総合戦略との兼ね合いということもございまして、スケジュールがタイトで、回数も多くなっておりますので、皆様には大変ご迷惑、お手数をお掛けしますが、ぜひご都合つく限りでご出席をお願いいたします。

もう1点ですが、実は総合計画審議会の委員の任期は2年でございまして、この8月9日までで現在の任期が切れてまいります。先ほどスケジュールで説明させていただきましたように分科会等で継続してご審議を賜りたいということがございます。

そうした中で、皆さんに引き続き委員の留任をお願いしたいということでございます。それから、併せまして会長・副会長にもご留任をお願いしたいということで、私どもの方からお願いでございます。

【鳥居会長】

役員の再任といいますか、留任といいますか、そういうことを了解いただきたいというご意見でございました。

(「異議なし」の声)

【鳥居会長】

異議なしという声も出ましたけど、よろしいですか。よろしいですね。

それでは、そういうことで第1分科会、第2分科会、それぞれ役員の方をよろしくお願いしたいと思います。

(4) 総合戦略について

【事務局】 (議案説明)

【鳥居会長】

説明をいただきました。ありがとうございます。

今、戦略の説明がございました。これから、この審議会はまさに安城の将来を決めてしまうという、大切な審議会でございます。これが忌憚のない、簡単に言いますと「おれはそんなふうには思っていないよ」と、はっきり言えるような会議にしたいと思います。

そこで意見を出していただいて、まとめるのは事務局に任せて、意見だけはしっかり申し上げて、それを何とか全体として調整してもらってまとめていくということが非常に良いかなと思います。

5 Kに対して、今まで縦社会の市役所だったのが今度、横串がたくさん入っていますので、少しずつフラットな行政が期待できると思いますので、事務局の方もひとつよろしくお願ひしたいと思います。

【田村委員】

観光の目指す姿に、「幸せを感じられるデンパークを目指します」とあるのですが、個の施設としてのデンパークのことを言っているのですか。他の所には、例えばサービスをもっと利用しようとか何も書いてなくて、ここだけ「デンパークを目指します」ということが書いてあるが、どういう意味でしょうか。安城市の一番の観光施設だということを書かれたのかどうか。

【事務局】

表現が適切かどうかということはありませんけれども、象徴的に書かしていただいているというところでデンパークということが掲げられております。ですので、デンパークだけということではございません。

【鳥居会長】

これで議事は終わりました。

今日は長時間、ご議論いただきましてありがとうございました。

5 連絡事項

【司会】

ありがとうございました。

最後になりますが、事務局より連絡事項を申し上げます。

【事務局】

繰り返しのことでございますけれども、次回からは分科会でそれぞれご審議をいただくということになりますので、よろしくお願ひいたします。

開催案内は事前に文書で送付をさせていただきますけれども、所属の分科会をお間違えのないようによろしくお願ひを申し上げます。

なお、基本計画につきましては、事前に冊子の形で送付をさせていただきますが、ぜひ自分の所属される分科会の担当分野だけでなく、もう一方の分科会の分までご覧いただき、見ていただければということでございますので、全体の分を合わせて送付をさせていただきますので、よろしくお願ひをいたします。

都合により欠席されるような場合には、もしご意見がございましたら事前にFAXやメールで送付いただければと思います。その折にはコピーをして、委員の皆様へ配付をさせていただこうと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

【司会】

以上をもちまして総合計画審議会を終了いたします。

本日はありがとうございました。